

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	郷土学習支援事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	公民館		包含する細々目	1	10	5	4	11	2	1,700
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり											
施策	29 ふるさと意識の醸成											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		関連計画条例等	地育力向上連携システム					
		事業期間	18	年度～	23	年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	市民	飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了した終了年度とする	
			107844	107000			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	・市民が郷土に対して愛着を持ち、学習意欲が高められるような場を提供する。	・講座参加者数 上位施策は拡大目標であるが、この事業の成果目標は下げるのか？施策の目標達成に貢献できるのか？	18目標	4082	最終目標		
			18実績	4619	19目標	5000	↑
			23目標	4500	23実績		最終目標達成年度
			18目標		最終目標		
			18実績		19目標		↑
23目標				23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	・各公民館で郷土の歴史・文化・自然を学び、知ることにより自分たちの郷土に対して愛着を持てるような学級講座。	・市民大学講座など自分たちの地域を知るための学級講座。連続した講座や現地研修を実施。特に、子どもを対象とした体験学習の機会の提供。 ・郷土日本画家遺作展実行委員会の立ち上げ	講座開催数	87回
	18年度の実績			
	19年度計画	・市民大学講座など自分たちの地域を知るための学級講座。連続した講座や現地研修を実施。特に、子どもを対象とした体験学習の機会の充実。 ・郷土日本画家遺作展の開催(市制70周年) ・市制70周年、公民館創立60周年などを記念した各地区の事業	講座開催数 展覧会の開催	100回

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	763	1,700
	事業費計(A)	763	1,700
人件費	正規職員所要時間	18年度 425	19年度 500
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	1,520	1,788
	トータルコストA+B	2,283	3,488

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	市民が地域を知る、地域を誇りに思う。	飯田の自然、歴史、文化を学んでいる市民の数	現状値	18016	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	19800
	ふるさとを誇りに思っている市民の割合	ふるさとを誇りに思っている市民の割合	現状値	75.3	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	85	

この事業を開始したきっかけ ・市民の中に、郷土に対して関心を持ち、学びたいという意識が高い。	事業を取り巻く状況の変化 ・参加者は若い人も多くなっている。 ・地育力の向上に関わって人材育成と郷土学習が重視されている。	事業に対する市民や議会の意見 地育力推進の具体化が求められている。
---	---	--------------------------------------

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？ (評価) 結びつく (その理由) 郷土を知り愛着を持つことにより、結果に結びつく。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？ (評価) 余地がある (その理由) 参加者を増やしていくために多様な学習プログラムの開発が必要。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 全市民を対象としており、見直しの必要はない。		廃止・休止した場合の影響はありますか？ (評価) 影響あり (その理由) 郷土を知るための学習機会が少なくなる。
	意図の見直しの必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 郷土への関心を持つことが、地域への愛着を持つきっかけとなるため、見直しの必要はない。		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む) (評価) 関連事業あり (類似事業名、理由) 美術博物館、歴史研究所などの連携重要。 この事業での子どもの体験学習と体験活動推進事業と極めて近いがそれについての考察はないか？
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか) (評価) 必要ある (その理由) 幅広い学習機会が必要であり、市が積極的に提供する必要がある。		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？ (評価) 可能 (その理由) 学習プログラムの改善。
	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？ (評価) 妥当である (受益者とその理由) ・必要に応じて負担していただいている。	公平性 評価	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	実施年度 <input type="text"/>	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 地域固有の自然・歴史・文化などの資源を教材として活用することにより、参加者の体験を通じて感動を覚える(ひいては郷土への愛着や誇りの醸成につながる)ことを重点に学習プログラムの改善を図る。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	学習プログラムの改善と多様な学習機会の創出	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由	
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？			

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	